

海運実務研修講座のご案内

2018年度予定および2017年度実績
(東京開催講座)



2018年9月

一般社団法人 日本海運集会所
セミナーグループ

- 注 ・セミナー会場は、特別な記載がない限り、日本海運集会所の会議室です。
- ・各講座の定員は50名です。
 - ・講師、内容等は変更になる場合があります。
 - ・各講座の1回あたりの講義時間は、原則として90分です。

記号について

- ★ 入門・初級 → 新人および実務経験1年程度向き
- ★★ 初・中級 → 実務経験1～3年程度向き
- ★★★ 中級以上 → 実務経験3～5年程度向き

改 前回より内容、講座名、回数等の変更あり

海運実務研修講座 もくじ

NO	テーマ	レベル	2018年度開催実績・予定日	ページ
1	造船契約の諸問題に対する実務対応(全1日)	中級以上	4月19日	5
2	船の技術知識あれこれ(全1日)	入門・初級	4月24日	6
3	トランプオペレーターの業務(連続2日間)	入門・初級	5月8日、9日	7
4	貿易実務基礎(全3回)	入門・初級	5月10日、17日、31日 ※5月24日は休講	8
5	コンテナ物流の基礎(全3回)	初・中級	5月15日、22日、29日	9
6	英文契約書入門(全5回)	初・中級	5月21日、28日、6月4日、11日、18日	10
7	^{<A日程>} 新人社員研修(春)(連続2日間)	入門・初級	5月23日、24日	11
8	共同海損基礎(全3回)	入門・初級	6月5日、12日、19日	12
9	^{<B日程>} 新人社員研修(春)(連続2日間)	入門・初級	6月6日、7日	13
10	海上物品運送契約(外航)入門(連続2日間)	初・中級	6月14日、15日	14
11	[改]船舶保険 入門(全3回) ※旧 実践 船舶保険	入門・初級	6月26日、7月3日、10日	15
12	[改]税務・会計基礎(全2回) ※旧 税務・会計セミナー	初・中級	7月5日、12日	16
13	[改]港湾・物流基礎(全1日) ※旧 物流基礎講座	入門・初級	7月11日	18
14	オフショアエネルギー保険の基礎(全1日) ※旧 洋上エネルギー関連保険	初・中級	9月7日	20
15	船舶管理実務(全2日) ※旧 全4回	初・中級	9月13日、20日	21
16	[改]"実務家の為の"具体的事例で学ぶクレーム対応(全2日)※旧(全6回)	初・中級	9月27日、10月4日	22
17	[改]トラブル回避のための貿易実務(中級編)(連続2日間)※旧 貿易実務(中級編)全3回	初・中級	10月1日、2日	23
18	海技の知識(全3回)	初・中級	10月3日、10日、17日	24
19	ドリルシップ・オフショア支援船・FPSOをとりまくリスクと契約上のリスク分担(全2日)	中級以上	10月11日、18日	25
20	外航貨物海上保険 入門(全3回)	入門・初級	10月12日、19日、26日	27
21	航海傭船契約におけるLaytimeの基礎知識(ドライバルク中心)(全3回)	初・中級	10月16日、23日、30日	28
22	不定期船実務の基礎知識(全9回)	初・中級	10月22日～12月17日	29
23	P&I保険の基礎(全4回)	入門・初級	11月2日、9日、16日、30日 ※11月23日は休講	31
24	入門 会計と海運業(全3回)	入門・初級	11月8日、15日、22日	32
25	新人社員研修講座(秋)(連続2日間)	入門・初級	11月20日、21日	33
26	航海傭船契約(基礎編・タンカー)(全4回)	初・中級	1月16日、23日、2月6日、13日 ※1月30日は休講	34
27	内航海運概論(全1日) ※旧 内航海運	入門・初級	1月頃	35
28	船荷証券の基礎と実務上の問題点(全5回)	初・中級	2月頃	36
29	航海傭船契約(応用編・タンカー)(全4回)	中級以上	2月20日、3月6日、13日、20日 ※2月27日は休講	37
30	船舶保険実務(中級)(全2回)	中級以上	2月頃	38
31	定期傭船契約(全4回)	初・中級	3月頃	39
32	船舶金融論と船主経営論(全2回)	初・中級	3月頃	40
33	船舶売買の実務(全3回)	中級以上	3月頃	41

海運実務研修講座 1 「造船契約の諸問題に対する実務対応(全1日)」

船舶建造・取引のトラブル対応のポイントを法的に学ぶ

★★★

今年度 実施日	4月19日(木曜日) 13:30～17:00
------------	---------------------------

一昨年度実施状況(昨年度は休講)

日 時	2016年4月20日(水曜日) 14:00～17:30(途中休憩有)
場 所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル 対 象	中級以上
講 師	一橋パートナーズ法律事務所 弁護士 瀬野 克久 氏
略 歴	慶應義塾大学法学部卒業 1984年 弁護士登録 1984-1990年 松尾綜合法律事務所 1990-2010年 一橋綜合法律事務所 2010年 一橋パートナーズ法律事務所 2012年 小町谷奨学金(日本海法学会賞)受賞 2013年 一般財団法人山縣記念財団 山縣勝見賞著作賞受賞 早稲田大学海法研究所 招聘研究員、 日本海法学会 会員、 日本海運集会所 海事仲裁委員会海事仲裁人
著 書	『船舶融資取引の実務』(日本海運集会所) 『船舶建造取引の実務』(日本海運集会所)
概 要	最近の新造船・備船マーケットの変化に伴い、既に締結されている造船契約上の義務を発注者が履行できないケースや船舶引取拒絶等の発注者の主張に関し検討をしておく必要があります。
内 容	<p>1. Shipbuilding ContractにおけるBuyerによる船舶の引取拒絶について</p> <p>(1)引取拒絶-英国法の観点 (2)引取拒絶-日本法の観点</p> <p>2. 造船契約におけるWarrantyについて</p> <p>3. 建造注文者の信用不安、義務不履行について</p> <p>(1)Buyerの債務不履行等Buyer事由による契約終了 Buyer's Default について Buyer's Default発生時におけるBuilderのとりうる手段 Shipbuilding ContractにおけるBuyerのその他の義務について</p> <p>(2)Buyerに対する倒産手続きの開始 (3)既存の契約の解除ないし変更、既存の契約の履行を確保する手段 (4)Buyerによる債務不履行等に基づく損害賠償 (a)損害賠償について-英国法 (b)損害賠償について-日本法</p>
テキスト	著書『船舶建造取引の実務』(日本海運集会所)

海運実務研修講座 2 「船の技術知識あれこれ(全1日)」

船のことがよく分かる！ 知っていた方が得なメカニズム



今年度 実施日	4月24日(火曜日) 13:30~17:00
--------------------	---------------------------

昨年度実施状況

日 時	2017年4月25日(火曜日) 13:30~17:00(途中休憩有)
場 所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル 対 象	入門・初級 若手社員、自身の知識整理・再確認したい中堅の方
講 師	MOLシッパテック 代表取締役社長 横田 健二 氏
略 歴	1977年東京大学工学部船舶工学科卒業。同年大阪商船三井船舶(株)(現株商船三井)入社。工務部にて新造船設計、新造船監督、保船等の業務に従事。 1994年技術部設計チーム課長、1996年技術部LNG船プロジェクトチーム課長、1998年技術部副部長、2000年LNG船管理部副部長、2002年技術部副部長、2005年技術部長、2007年執行役員、2009年常務執行役員、を経て2012年より株MOLシッパテック代表取締役社長。
概 要	本講座では、船の基礎知識から主要目の説明、推進性能・燃費、さらに造船に関わる知識まで幅広く講義します。充実した資料を参照しながら様々な技術用語もできるだけ解説します。 海運・造船に関わって間もない若手社員や、知識をもう一度整理し理解を深めたい中堅の方々を対象とした、体系的に技術知識を得るために最適な講座です。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・造船・海運でよく使われる単位 ・主要金属、液体、気体の比重と物性 ・船とは(船の定義、船の分類) ・船型(1.バルカー、2.タンカー・プロダクト船、3.コンテナ船、4.各船種の構造) ・主要目(1.主要寸法、2.トン数、3.船籍船級検査規則、4.主機関、5.主要補機) ・性能・燃費(1.推進性能、2.燃費) ・復元性能(GM) ・海上試運転 ・造船契約(造船契約と関係者) ・建造工程 ・船費 ・検査・修繕 ・塗装(防錆塗料、防汚塗料) ・係船設備 ・造船・海運に関わる人

海運実務研修講座 3 「トランプオペレーターの業務(連続2日間)」		★
業界入門講座！ チャーターリング、配船、運航業務のあらし		
今年度実施日	5月8日(火)、9日(水) 18:00～19:30	

昨年度実施状況

日時	2017年5月8日、15日(毎週月曜日) 18:00～19:30(初回の講座終了後、20:30まで懇親会)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	入門・初級 新入社員、入社2～3年目ぐらいまでで基本的な内容確認をしたい方。また、今後の業務に自信を持ちたい方。	
講師	クリッパージャパン 代表取締役 大島 和実 氏(元 昭和海運営業2部長)	
略歴	1971年早稲田大学商学部卒業後、昭和海運㈱入社。 不定期船部近海課配属を皮切りに、在来船定航部門での数年間を除き、1998年までの27年間を一貫してケーブサイズ、Panamax等の大型—中型不定期船営業部門で用船・貨物契約等の業務を担当。1995年からは不定期船第二営業部長として、ハンディーサイズも含めたフリー船バルク部門全般の営業を担当。1992年から1995年までロンドン駐在。このほかドバイ、クアラルンプールでの駐在も経験。1998年、昭和海運と日本郵船の合併を機に、米国Portlandに本社を持つLasco Shippingの日本代表に就任。2003年、デンマークのClipper GroupによるLasco社の買収を機に、同グループの日本代表になり、現在に至る。	
概要	<p>‘一般不定期船’部門の縮小、撤退が相次ぐほど、バルクマーケットの長期低迷は深刻ですが、この仕事はなくなることはありません。</p> <p>金融取引・ITなどとは異なり、この仕事は、生きた人間の乗る‘船’を道具に我々の生活に欠かせない物資を運ぶ実業であるだけでなく、商売上の人間関係・長期信頼関係がいまだに大いに物を言うアナログで魅力に富んだ世界でもあります。</p> <p>本講座は、講師の実経験や失敗の数々を織り交ぜながら、若い世代の海運マンに‘Tramp’業務の魅力を伝え、今後の手引きとなるよう構成されています。</p>	
内容	1	不定期船(Tramper)業務は海運マン・ウーマンの神髄 1.不定期船業務とは 2.船の種類 3.不定期船貨物 4.傭船契約(航海傭船・賃積=Voyage Charter) 5.C/B
	2	伝統的不定期船事業(一般不定期船)の復活は必須 1.Operation 2.引き合い 3.傭船契約(定期傭船=Time Charter) 4.傭船と社船 5.不定期船経営とマーケット

海運実務研修講座 4 「貿易実務基礎(全3回)」

仕事の基礎固め！ 貿易のしくみをきちんと理解する



今年度実施日	5月10日、17日、31日(毎週木曜日) ※5月24日は休講 15:30～17:00
---------------	---

昨年度実施状況

日時	2017年5月10日、17日、24日(毎週水曜日) 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00頃まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先／先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	入門・初級 新入社員、中途入社社員で、実務の基本的なことを学習したい方。 ※9月に実施予定の中級編は、本講座を受講済みであるか、それ相応の基礎知識を持ち合わせていることが望ましい。	
講師	アースリンク 貿易アドバイザー 川村 久美子 氏	
略歴	大学卒業後、電子材料商社・電子精密部品メーカーにて一貫して仕入管理業務を担当。取引先の海外展開拡大に伴い、輸出・輸入業務全般も兼任。以降、実務部門の責任者として、新入社員のオリエンテーション、一般社員を対象とした貿易実務に関する勉強会等、社内研修の立案・計画も含めて社内講座を開催、講師を務める。 定年退職後、株式会社アースリンクにて、これまでの豊富な実務経験を生かし、貿易実務、外為講師および企業の海外展開に関するアドバイザーとして本格的に活動開始。講師業のかたわら、株式会社アースリンクにおいて、貿易アドバイザーとして企業の海外展開のコンサルタント業務も行っている。 貿易実務検定準A級、グローバルビジネス法務検定C級、教員免許「英語」中学1級、高校2級、図書館司書資格保持者。	
概要	本講座では、貨物と書類の流れや貿易取引条件など、一般的な貿易実務の流れを体系的に把握し、基礎的な知識を学習していきます。 輸出者と輸入者の費用負担や責任の範囲、保険の付け方などリスク分担のしくみをインコタームズを通して身につけます。 最後に通関や輸出入の制度、貨物の引き取りに関わる実務を解説します。また、初心者がイメージしやすいよう、例を交えた説明とともに、図表や書類サンプル等の資料を用いて構成されています。	
内容	1	1.貿易取引の流れ ・国内取引と貿易取引との相違点 ・貿易取引の流れ(L/C取引) ・貿易取引の主要書類 ・荷為替手形による決済
	2	2.インコタームズ ・インコタームズとは ・費用負担の範囲と貨物の危険負担の範囲 ・インコタームズの11条件 ・インコタームズと輸送 3.貿易運送 ・海上輸送とB/L ・航空輸送とAir Waybill ・複合輸送
	3	4.輸出の実務 ・輸出実務の流れ ・輸出通関のしくみ ・輸出の法規制 ・コンテナ船への船積み 5.輸入の実務 ・輸入実務の流れ ・輸入通関の流れ ・輸入の法規制 ・関税制度 ・コンテナ船の貨物引き取り ・B/Lなしの貨物の引き取り ・Sea Waybill ・Surrendered B/L

海運実務研修講座 5 「コンテナ物流の基礎(全3回)」

邦船3社の事業統合など最近のトピックスを材料に基本的知識を解説

★★

今年度実施日	5月15日、22日、29日(毎週火曜日) 15:00~17:00(120分/回)
---------------	---

昨年度実施状況

日時	2017年5月25日、6月1日、8日(毎週木曜日) 15:00~17:00+質疑応答(初回のみ終了後懇親会につき18:00頃まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:22,857円(税別) JSE非会員:42,857円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	初・中級	
講師	コスモ・レジェンド 代表取締役(元 商船三井) 臼井 修一 氏	
略歴	1976年大阪商船三井船舶(株)(現 株商船三井)入社。 コンテナ営業部門、企画業務部門を経て港湾・流通部門のグループ・リーダーとなりアジア各国の物流センターを立ち上げ、その後、月刊誌「港湾(日本港湾協会発行)」編集委員を務めた。 (株)MOLジャパン営業企画部長時代は、本田技研の上海のサービスパーツ物流センターを設営。2007年商船三井退職後は、五十嵐冷蔵(株)にて執行役員を務める。同社の海外における冷凍倉庫事業展開を指揮。 2010年(株)コスモ・レジェンドを設立。人材紹介事業、講習会、海外物流関係等コンサルタント事業などを展開中。 2014年には、物流大手SBSホールディング社のタイ国シラチャでの大規模物流センターの建設に関するコンサルティング業務を受注し、詳細設計、施工管理を包括的に引受けた。	
著書	実務入門書『コンテナ物流の基礎』(コスモ・レジェンド) http://book.geocities.jp/siena_usui/	
概要	商船三井にて長年コンテナ部門に従事した講師が、著書『コンテナ物流の基礎』を使い、コンテナ船実務の基礎を解説した上で、主要テーマを深掘りして説明します。 邦船3社のコンテナ部門の事業統合やパナマ運河の拡張後の航路見直し、といった最近のトピックスやエピソードについて解説しながら、これらを材料に、コンテナ船の大型化やアライアンスの変遷などを含め、コンテナ物流に携わる実務者にとって当然知っておくべき基礎知識について深掘りした説明をします。 尚、1回当たりの講義時間を120分とし、全3回となっています。また、“質問コーナー”をたっぷり設ける予定です。	
内容	1	<ul style="list-style-type: none"> ・20000TEU積コンテナ船の登場 <ul style="list-style-type: none"> －船社のソロバン勘定 －各航路における投入船型の変化 －パナマ運河拡張のbefore/after ・邦船3社の事業統合 <ul style="list-style-type: none"> －アライアンスの本質と変遷 ・コンテナ航路とウィークリーサービスの本質 ・港から先のコンテナ輸送 <ul style="list-style-type: none"> －トレーラー輸送の問題点 －鉄道輸送は現実的か
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ定期航路の運営(あなたもコンテナ航路を運営してみませんか) <ul style="list-style-type: none"> －収支の構造を説明しながら、様々な費用項目を現場の視点で解説。 －事業統合で経営は安定?
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入全体の流れとコンテナターミナル ・ユニークな日本の関税制度~輸出入通関のポイント ・B/L(船荷証券)のポイント ・セキュリティ全般
必携品	電卓(携帯・スマートフォン等の電卓機能も可)	
テキスト	著書『コンテナ物流の基礎』(コスモ・レジェンド)	

海運実務研修講座 6 「英文契約書入門(全5回)」

英文契約書における特有な解釈の仕方を身につける！



今年度実施日	5月21日、28日、6月4日、11日、18日(毎週月曜日) 15:30～17:00
---------------	--

昨年度実施状況

日時	2017年5月30日、6月6日、13日、20日、27日(毎週火曜日) 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00頃まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	初・中級 英文契約書の初学者。 ※海運分野における各種契約書講座は、別途実施予定です。	
講師	小牧 弘幸 氏 翻訳業(ビジネス&法務翻訳)、セミナー講師(英文契約書)	
略歴	東京外語大学ドイツ語学科を卒業後、1971年日商岩井入社。本社勤務をはじめとし、欧州に11年間駐在。主に船舶(売買・用船)仲介業務に携わる。1994年に日本ウェーブロックに転じ、開発部長、営業部長を経て、理事人事総務本部長を最後に退職。2003年からは在宅翻訳者として、契約書、法律・司法、企業文書(定款・規定・マニュアルなど)の翻訳業の他、翻訳学校や企業などで英文契約書のセミナー講師なども行う。	
概要	2010年度より実施し毎年好評を得ている本講座では、まず、日本の契約書と英米法の契約書の考え方の違いを学習し、英文契約書の構成を表題から署名まで、ひとつずつ読み込んでいきます。そして、英文契約書で使用される用語や表現の法律上の意味、類義語・類例について丁寧な説明を加えながら、豊富な例文に沿って条文を読み解いていきます。 入門講座ですが、中級にかかる程度の学習内容です。本講座で学ぶ法律の基本用語、表現の解説は、これからの海運関係の英文契約書を読み進めるにあたって基礎となります。	
内容	1	<英文契約書の特徴> 日本の契約書と英文契約書の違い・英文契約書の構成 ・英文契約書は長い ・契約の成立 ・英文契約書の英語 ・表題、頭書、前文、本文、末尾文言、署名
	2	<基本用語・表現の解説> ・英文契約書を理解する上で欠かせない基本的な用語・表現
	3	<一般条項の解説> ・定義条項(Definitions) ・当事者間の関係(Relationship of Parties; or Privity) ・秘密保持(Confidentiality) ・不可抗力(Force Majeure) ・契約期間と契約の解除(Term and Termination) ・契約終了後の取り扱い(Effect of Termination) ・契約の譲渡(Assignment) ・準拠法(Governing Law)
	4	・仲裁(Arbitration) ・裁判管轄(Jurisdiction) ・紛争の解決(Dispute Resolution) ・通知(Notice) ・使用言語(Language) ・権利の放棄(Waiver) ・契約条項の可分性(Severability) ・契約の完結性(Entire Agreement) ・見出し(Headings) ・複本(Counterparts)
	5	<各種国際契約と代表的な条文> (1) 売買契約書 (2) 販売店契約書 (3) ライセンス契約書 (4) 合弁契約書 <質疑応答>

海運実務研修講座 7 「新人社員研修(春)(連続2日間)」<A日程>	
船で世界の荷物を運ぶ 海運の基礎を学ぶ ★	
今年度実施日	5月23日(水)、24日(木) 13:30～17:00(初日終了後、18:30まで懇親会)

昨年度実施状況

日時	2017年5月18日(木)、19日(金)【連続2日間】 13:30～17:00(初日は講義終了後19:00まで懇親会)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	入門・初級 新入社員、中途入社社員	
概要	初日は、疑似航海のストーリーを組み入れ商船の運航の基礎を学び、二日目は海事産業の仕組みの説明を含めた海運入門、及び船舶保険・P&I保険の概要を学び、海運マンの基礎的な知識を身に付けていただくことを目的としています。 また、一日目の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しております。ぜひご参加ください。	
内容	5月18日(木)	第一部 13:30～17:00 (途中休憩有) 『商船の運航・基礎編』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上貨物輸送の現状(日本海運と便宜置籍船、船員リソース) ・船の諸元(長さ、幅、深さ、喫水、トン数、速度、操縦性能) ・航海実務(入出港、大洋航海、航海計画、荷役、航海計器、当直体制、パナマ運河、スエズ運河) ・船舶管理 ・安全運航管理(海難事故、海賊対策、ISMコード) ・商船の環境対策(燃費・CO2排出) ・その他、船の現状(船内生活、通信、健康管理)
		講師：日本海洋科学 代表取締役社長 関根 博 氏 第二部 『懇親会』 17:00～18:30 <ul style="list-style-type: none"> ・異業種の方とお話できる場でもあります。積極的にご参加ください。
	5月19日(金)	第一部 13:30～17:00 『海運ビジネスの基礎』 <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の海事クラスター <ol style="list-style-type: none"> (1) クラスターの構成者 (2) 構成者の紹介 2. 海運ビジネスの仕組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 運航者と船主 (2) 運賃と傭船料 (3) 船舶採算の基礎 3. 海運の事業部門 <ol style="list-style-type: none"> (1) コンテナ事業 (2) ドライバルク事業 (3) 石油・ガス運搬事業 (4) その他 4. 海運を取り巻く現状 <ol style="list-style-type: none"> (1) 船舶の大型化 (2) 海運市況 (3) 海運の将来
		講師：商船三井 ドライバルク営業統括室長 星野 淳 氏 休憩 15:00～15:30 第二部 15:30～17:00 『船舶保険/P&I保険の概要』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の成り立ち ・海上保険の全体像 ・船舶保険の種類とその概要 ・P & I 保険の概要
講師：損害保険ジャパン日本興亜 海上保険室船舶保険グループ グループリーダー 宮本 光洋 氏		

海運実務研修講座 8 「共同海損基礎(全3回)」

海上輸送リスクを利害関係者間で分担する仕組みの基礎



今年度 実施日	6月5日、12日、19日(毎週火曜日) 15:30～17:00
--------------------	------------------------------------

昨年度実施状況

日時	2017年7月5日、12日、19日(毎週水曜日)計3回 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	入門・初級	
講師	チャールス・テイラー・ジャパン 代表取締役 関根 司 氏	
概要	<p>昨年より講義内容に若干の見直しを加え、「厄介で難しい」と考えられがちな共同海損をなるべく噛み砕いて解説いたします。</p> <p>GAを理解するための基礎的なポイントを押さえ、いくつかの事故例を参考にGAの知識を習得します。また、最新のYAR2016の主な改定点についても簡単に触れます。</p>	
内容	1	<p>GAの基礎知識(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GAとは何か? ・GAの成立要件 ・二つの種類のGA「損害」 ・GA事故の例 GAの具体的な事故例を3つほど紹介し、どのような出費がGAに認められるのかを解説します。 ・GAとYARの関係 ・YARの歴史
	2	<p>GAの基礎知識(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GA Declarationについて ・GA Securityについて、 ・実際にGA事故が起こったら?各当事者の役割 事故の際に、船主、傭船者、荷主等、各立場における対応を解説します。 ・YAR 2016の改定点
	3	<p>MIA 1906、並びにイギリス船舶保険マーケット等々について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の基礎「英国海上保険法(MIA 1906)」について ・イギリス船舶保険マーケットと日本マーケットとの比較 ・イギリスという国について、その他 長年イギリスと関わってきた経験から、イギリスという国について、イギリス人との付き合い方についてお話しします。

海運実務研修講座 9 「新人社員研修(春)(連続2日間)」<B日程>	
船で世界の荷物を運ぶ 海運の基礎を学ぶ ★	
今年度実施日	6月6日(水)、7日(木) 13:30～17:00(初日終了後、18:30まで懇親会)

昨年度実施状況

日時	2017年5月18日(木)、19日(金)【連続2日間】 13:30～17:00(初日は講義終了後19:00まで懇親会)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	入門・初級 新入社員、中途入社社員	
概要	初日は、疑似航海のストーリーを組み入れ商船の運航の基礎を学び、二日目は海事産業の仕組みの説明を含めた海運入門、及び船舶保険・P&I保険の概要を学び、海運マンの基礎的な知識を身に付けていただくことを目的としています。 また、一日目の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しております。ぜひご参加ください。	
内容	5月18日(木)	第一部 13:30～17:00 (途中休憩有) 『商船の運航・基礎編』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上貨物輸送の現状(日本海運と便宜置籍船、船員リソース) ・船の諸元(長さ、幅、深さ、喫水、トン数、速度、操縦性能) ・航海実務(入出港、大洋航海、航海計画、荷役、航海計器、当直体制、パナマ運河、スエズ運河) ・船舶管理 ・安全運航管理(海難事故、海賊対策、ISMコード) ・商船の環境対策(燃費・CO2排出) ・その他、船の現状(船内生活、通信、健康管理)
		講師：日本海洋科学 代表取締役社長 関根 博 氏
		第二部 『懇親会』 17:00～18:30 <ul style="list-style-type: none"> ・異業種の方とお話できる場でもあります。積極的にご参加ください。
	5月19日(金)	第一部 13:30～17:00 『海運ビジネスの基礎』 <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の海事クラスター (1) クラスターの構成者 (2) 構成者の紹介 2. 海運ビジネスの仕組み (1) 運航者と船主 (2) 運賃と傭船料 (3) 船舶採算の基礎 3. 海運の事業部門 (1) コンテナ事業 (2) ドライバルク事業 (3) 石油・ガス運搬事業 (4) その他 4. 海運を取り巻く現状 (1) 船舶の大型化 (2) 海運市況 (3) 海運の将来
		講師：商船三井 ドライバルク営業統括室長 星野 淳 氏
		休憩 15:00～15:30
第二部 15:30～17:00 『船舶保険/P&I保険の概要』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の成り立ち ・海上保険の全体像 ・船舶保険の種類とその概要 ・P & I 保険の概要 		
講師：損害保険ジャパン日本興亜 海上保険室船舶保険グループ グループリーダー 宮本 光洋 氏		

海運実務研修講座 10 「海上物品運送契約(外航)入門(連続2日間)」

業界必須の基礎知識を身につける！

★★

今年度 実施日	6月14日(木)、15日(金) 13:30～17:00
--------------------	--------------------------------

昨年度実施状況

日時	2017年6月22日(木)、23日(金)(連続2日間) 13:30～17:00(初日終了後、18:00まで懇親会)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級	
講師	日本海運集会所 仲裁グループ長 青戸 照太郎	
概要	<p>貨物の海上輸送契約が結ばれた場合、当事者間の関係を規律するものは、その契約の各条項だけでなく、関連する法律や、判例で示された種々の原則にも及びますので、これらを体系的に理解しておくことが必要となります。</p> <p>本講座では、これから海事関連業界で本格的に実務に携わる方々を対象に、そうした外航の海上物品運送契約で必要となる法的知識の基礎を、イラストを用いたやさしい解説で、2日間集中して学習します。</p>	
内容	6月22日 (木)	第1部 1.海上物品運送と輸出入(FOB、CIF、L/C決済) 2.海上物品運送の契約手段(B/L、C/P) 3.運送人による船舶の手当(BBC、T/C、V/C) 4.運送契約の成立と権利義務(含COGSA)
		第2部 1.Voyage Charter の全体像 2.Laycan と Arrived ship 3.荷役(Laytime、Demurrage、FIO等) 4.運送人の権利と義務(運賃、B/L等) 5.貨物の引渡し(LOI渡し等)
	6月23日 (金)	第3部 1.Time Charter の全体像 2.本船の引渡し 3.Off-hire 4.傭船料の支払いと引揚権 5.傭船期間と返船及び最終航海の指示 6.その他(Employment、荷役責任、ICA、スピードクレーム)
		第4部 1.傭船契約と船荷証券の関係 2.船荷証券の当事者 3.各運送契約の相違と補償 4.ケース・スタディー

海運実務研修講座 11 「船舶保険 入門(全3回)」※旧 実践 船舶保険

改

船舶損害のリスクを補填する保険の基礎知識

★

今年度実施日	6月26日、7月3日、10日(毎週火曜日) 15:30～17:00(初回終了後、18:00まで懇親会)
---------------	--

昨年度実施状況

日時	2017年6月7日、14日、21日(毎週水曜日) 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00頃まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	入門・初級	
講師	東京海上日動火災保険 コマーシャル損害部船舶グループ専門課長 小林 元彦 氏	
略歴	1986年入社。現在本店・コマーシャル損害部船舶グループに所属し、2012年4月以降、今治に駐在。入社以来、一貫して、海上保険(主に船舶保険)の損害査定(事故対応)の業務に従事。具体的な海難事故の事案対応などに詳しい。	
概要	本講座では、船舶保険の基礎を学ぼうとする方々を対象に、各種船舶保険の内容、保険金支払いの対象となる事故および損害、事故発生時の対応・注意点等、船舶保険について押さえておくべきポイントを講義いたします。	
内容	1	船舶保険の基礎知識 (P&I保険を含めた船舶保険の商品説明を中心として)
	2	海難発生時の対応(1) 修繕・衝突 (保険てん補の範囲を含めて)
	3	海難発生時の対応(2) 全損・救助・共同海損 (保険てん補の範囲を含めて)

海運実務研修講座 12 「税務・会計基礎 (全2回)」※旧 税務・会計セミナー(全3回) 改

船主側からみる海運特有の税制と事業承継

★★

今年度 実施日	7月5日、12日(毎週木曜日) 15:30～17:00
------------	--------------------------------

昨年度実施状況

日 時	2017年7月24日、31日、8月7日(毎週月曜日)計3回 18:00～19:30(初回終了後、懇親会につき20:30まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	初・中級	
講 師	1	青山総合会計事務所 宮里 猛 氏
		中規模税理士事務所において国内税務全般に従事した後、2005年青山総合会計事務所に入所。主に不動産証券化業務、クロスボーダー取引へのアドバイザー業務に携わり、外国事業会社の日本進出支援、日本企業の海外進出における税務アドバイザー業務に従事し、2010年より海事グループを兼任。
	2	青山総合会計事務所 成田 武司 氏
		明治大学経営学部卒。2005年より会計事務所にて、幅広い業種の事業会社の会計税務業務に従事した後、2011年より青山総合会計事務所に入所。金融債権・不動産などのストラクチャードファイナンス業務に携わる。その後、2013年より青山総合会計事務所シンガポールにて日系企業の海外進出支援業務及び海外ファンド管理業務を担当。2017年6月より青山総合会計事務所東京オフィスに帰任し、国際税務を中心としたアドバイスを行う。
	3	Aoyama Sogo Accounting Office Singapore Pte. Ltd 長縄 順一 氏 公認会計士・税理士
		慶応義塾大学経済学部経済学科卒業。1998年監査法人トーマツに入所し、監査業務、株式公開支援業務に従事した後、2001年に青山総合会計事務所に入所。数多くのファンド組成・管理、クロスボーダー取引へのアドバイザー業務に携わる。その後、同社にて海事グループ及びグローバルアドバイザーグループを統括し、2012年より青山総合会計事務所シンガポールオフィスの代表としてシンガポールにて日系企業の海外進出支援業務を担当。
概 要	<p>経済環境が刻々と変化するにともない税制も歩調を合わせるように改正され、国際的な事業環境の内にいる海運事業者の経営に税制の理解が重要な意味を持ちます。</p> <p>本セミナーでは、税務入門として海運業界に関連する税制の基本的事項、海運業界に密接に関係するタックスヘイブン対策税制の解説と、数年来海運業界の海外進出の拠点となったシンガポールにおけるケーススタディを中心に解説します。</p>	

内 容	1	<p>税務入門編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人税 ・源泉所得税 ・消費税や印紙税等の間接税 ・租税条約 ・税制動向など <p>海運業界の方々が知っておいていただきたい税制の基本的な取扱い、海外取引において適用される租税条約との関係を解説し、最近の税制の動向をお伝え致します。</p>
	2	<p>海運税制(タックスヘイブン対策税制を中心として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タックスヘイブン対策税制の概要 ・平成29年度税制改正の影響 ・外国子会社配当益金不算入 <p>海運業界の事業展開やタックスプランニングに密接に関係するタックスヘイブン対策税制についての概要、平成29年度税制改正における今後の見通し、外国子会社からの資金還流方法などの点について解説いたします。</p>
	3	<p>ケーススタディ(シンガポール進出を想定した頻出論点総まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主構成に関する整理整頓(個人会社 vs 日本子会社) ・現地法人の取締役の構成 ・就労ビザに関する最近の動向 ・会社維持にかかるコスト(現地駐在員関連のコスト中心に) ・親会社の承諾事項の税務上の考え方(タックスヘイブン対策税制の観点から) ・シンガポールの船舶優遇税制まとめ ・シンガポール国外から船舶購入資金の借入する場合の留意点 ・備船に関する会計税務のシンガポールと日本との相違 ・シンガポール法人がパナマ法人を通じて船舶保有する場合の課税上の整理 ・最近の税務上のトピック・移転価格税制関連のまとめ ・撤退する場合の手続概要 <p>シンガポールは日本のみならず多くの国から海運事業者が集まっており、海運事業者も少なからずシンガポールに事業拠点を置いております。本セミナーでは実際のシンガポール進出の際に知っておくべきポイントをケーススタディや最近のトピックを交えながら解説いたします。</p>

海運実務研修講座 13 「港湾・物流基礎(全1日)」※旧 物流基礎講座(全5回)		改
輸出入の業務、国際物流を支えるプロになる		★
今年度実施日	7月11日(水曜日) 13:30～17:00	

昨年度実施状況

日時	2017年9月7日、14日、21日、10月5日、12日(毎週木曜日) ※9月28日は休講 18:00～19:30(初回終了後、懇親会につき20:30まで)
場所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル対象	入門・初級
講師	春山 利廣 氏 東海大学海洋学部および流通経済大学流通情報学科 非常勤講師 (元 商船三井、元 ジャパンエクスプレス 専務取締役・顧問)
略歴	1973年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。(株)商船三井入社。 1984～1989年米国ロスアンゼルスに駐在。輸入貨物のロジスティクス構築に従事。1997～2000年タイ国バンコックに駐在。保税倉庫を運営。2001年タイ国Assumption大学MBAコース修了。経営学修士。 2001～2003年米国ミシガン州駐在。保税倉庫を運営。2003年(株)ジャパンエクスプレスに移籍。取締役兼倉庫部長、2012年常務取締役、専務取締役を経て顧問。2013年退社後、コンサルタント業開設。 現在東海大学海洋学部、流通経済大学流通情報学科にて非常勤講師を務める。 MCS(商船三井キャリアサポート)、大原学園他にて貿易、通関の講座を担当。
著書	『ココで差がつく!貿易・輸送・通関実務』成山堂書店 http://www.seizando.co.jp/shop/index.php?main_page=product_info&products_id=1437 『港湾倉庫マネジメント — 戦略的思考と黒字化のポイント』成山堂書店 http://www.seizando.co.jp/shop/index.php?main_page=product_info&products_id=1281
概要	「貿易」、「輸送」、「通関」は国際物流の構成要素です。また、「倉庫」は物流に欠かせない道具です。 本講座は「輸送」、「通関」、「倉庫」を軸に国際物流の基本的な項目を取り上げていきます。コンテナ船や在来船、専用船による運送を題材に多彩、かつ実践的な内容となっています。輸送や通関、倉庫は独立した存在ではなく、相互に複雑に関連しています。 受講者がこれらの関連を理解することにより、国際物流をよりスムーズに展開できるようになることを目的としています。

内 容	1	国内物流、国際物流のプロバイダー (1)国内物流の担い手はトラック会社、鉄道会社、海運会社、航空会社のみでない。多様な業者が物流を引き受けている。これらの業者の業務や法的地位を紹介する。 (2)国際物流においても多様なサービスが提供されている。主要なサービスを理解することは国際物流の選択肢を増やすことにつながる。
	2	日本の通関制度(コンテナ貨物の通関) (1)日本の通関制度は「通関」と「保税」に分けられる。両者は、輸出入の税関手続きに際し相互に関連することを解説する。 (2)次に、コンテナ貨物を対象に、輸出・輸入申告から許可までの手順を解説する。国際物流には輸送と通関・保税、貿易条件に係る知識が不可欠であることが理解できる。
	3	在来船、専用船の運送契約と通関 (1)日本の輸出入において梱包された貨物の輸送はコンテナ船が中心であり、在来船のシェアは低い。いっぽう、石炭や小麦、原油などの原材料は専用船で大量に輸送されているが注目度は低い。 (2)今回は、在来船の船積と運賃、及び、専用船の傭船契約と運賃・通関を取り上げる。これらの知識を使用する頻度は高くないが、国際物流に携わる者が習得すべき項目である。
	4	国際物流と日本の港湾倉庫・物流倉庫 (1)国際物流に使用する倉庫を取り上げる。倉庫は、輸出・輸入通関のために貨物を一時的に蔵置する場所であり、同時に各種の物流サービスを提供する拠点である。 (2)倉庫の種類とそれぞれの倉庫が提供する物流サービスを理解することにより、国際物流と国内物流の結節点である倉庫をより効率的に利用できる。
	5	日本の貿易管理制度(関税、AEO、他法令) (1)日本の貿易管理制度を取り上げる。同制度が輸出入に影響を及ぼすのは当然であり、輸出入規制や関税率は輸出入者にとって重大な関心事である。 (2)日本の貿易管理体制を「関税」、「テロ対策」、「他法令」の3つの切り口から解説する。いずれも流動的な側面があり、将来のあるべき姿にも触れる。

海運実務研修講座 14 「オフショアエネルギー保険の基礎(全1日)」 ※旧 洋上エネルギー関連保険 洋上エネルギー保険全般を学習し、実践力向上		★★
今年度 予定	9月7日(金曜日) 13:30～17:00(講義終了後、懇親会につき18:00頃まで)	

昨年度実施状況

日 時	2017年12月1日(金曜日)13:30～17:00 (講座終了後18:00まで懇親会)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	初・中級	
講 師	三井住友海上火災保険 海損部船舶グループ次長 石禾 徹生 氏	
概 要	洋上エネルギー保険は、洋上での石油・ガスの開発に伴うリスクをカバーする保険です。 本講座では、洋上エネルギー保険の基礎およびクレーム対応について解説いたします。 洋上石油/ガス生産プロジェクトおよびFPSO(浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)に関わる物保 険、賠償責任保険、費用保険、不稼働損失保険について、基礎および実務上のポイントを説明するととも に、洋上エネルギー関連保険における過去の大口クレームを取り上げて、事故対応における留意点などを 解説します。	
内 容	1	洋上エネルギー開発関連保険の基礎知識についての解説 ・洋上石油/ガス生産プロジェクトおよびFPSOにおける保険手配 ・物保険(Property)、賠償責任保険(Liability)、費用保険(Cost of Control)、 不稼働損失保険(Loss of Earnings) ・保険条件(Wording)
	2	洋上エネルギー開発関連保険のクレーム対応についての解説 ・大口クレーム(Piper Alpha事故からメキシコ湾原油流出事故) ・クレーム精算実務

海運実務研修講座 15 「船舶管理実務(全2日)」※旧 全4回

船舶管理業務の概要を体系的に学ぶ

★★

今年度 予定	9月13日、20日(毎週木曜日) 13:30～17:00
-------------------	---------------------------------

昨年度実施状況

日時	2017年9月5日、12日、19日、26日(毎週火曜日) 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級	
講師	ワールドマリン株式会社 取締役・常務執行役員・船舶管理グループ長 杉本 和重 氏	
略歴	1988年ワールドマリン株式会社入社。航海士及び船長として海上勤務の後、海務監督として船舶管理業務に従事。同社海務グループ長、品質安全管理室長を経て、2010年より現職。	
概要	船舶管理は、関連規則・条約の規定に基づき、本船の堪航性を確保しさらに本船の資産価値を維持する船主業務の大きな柱であり、その実務は船舶の安全運航・保守管理・船員の教育訓練、事故防止・対応などのリスクマネジメントと多岐にわたっています。 本講座では船舶管理会社のプロフェッショナルを講師にお招きして、船舶管理業務の概要を体系的に解説していただきます。	
内容	1	船舶管理概要 船舶管理契約 / 船舶管理費用 / ISM Codeと安全管理
	2	乗組員管理業務 乗組員配乗管理・教育 / MLC2006条約の概要
	3	工務関連業務 保船・入渠作業実務 / 関連条約・規則と検査
	4	海務関連業務と安全管理 備船契約・運航管理 / Inspection関連業務 / 安全管理実務

海運実務研修講座 16 改	
「“実務家の為の”具体的事例で学ぶクレーム対応(全2日)」 ※旧“実務家の為の”具体的事例で学ぶクレーム対応の基礎(全6回) 海事法の基礎を身につけ、事例を通してクレーム対応力を高める	
★★	
今年度 予定	9月27日、10月4日(毎週木曜日) 13:30～17:00

昨年度実施状況

日時	2017年6月5日、12日、19日、26日、7月3日、10日(毎週月曜日) 15:30～17:00(初回のみ終了後懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:30,000円(税別) JSE非会員:60,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級 実務の中で出会う様々な紛争に際し、少しでも適切な初動が出来るよう海事契約の基礎を学びたいと思っている方(船主・オペレーター・荷主の運航担当者若しくは現場担当者など) また、実務者、未経験者の場合は、用語の正確な定義を不知でも紛争の論点を整理したいと感じている方。	
講師	早坂 剛 氏(元 川崎汽船 法務グループ長)	
概要	本講座では、“法務を直接担当されていない方々”も対象に、日頃の実務の中で遭遇するだろう事態に、少しでも適切に反応出来るよう、極力、具体的事例に沿って解説します。よく誤解されている事項をいくつか取り上げ、その解説を通して、海事法の基礎とその構造を学びます。極力法律の専門用語は避ける様にしますが、契約の解釈に必須な限度で英国法独特の基礎的コンセプトにも少し触れます。	
内容	1	船荷証券を巡る紛争 例) - “On deck積みした羊2000頭のうち数10頭が運送中に流失した！ B/Lには、運送人を免責する旨の規定があるがそんな勝手な規定は無効だ！” - “運賃未収のまま、Prepaid B/Lを発行したら、Shipperが倒産しちゃった！どうしよう！？” - “定期傭船者が自社策定の書式で発行した船荷証券なのだから、運送人は、定期傭船者に決まっている！船主は一切貨物損害の責任を負わない！” - “しかし、仮に船荷証券の運送人でないとしても船主は必ずしも貨物損害の責任を免れるとは言えない！かえって責任が重くなることもあるかも！” - “LOIを貰ったぞ！これで総てのリスクがヘッジ出来る！” “ホントに大丈夫かい？”
	2	定期傭船契約を巡る紛争： 例) - “船が不具合の時間は、全部Off-hireに決まっているだろう！” - “理由は、どうであれ、本船の当初のスケジュールに遅れが出たらそのロスタイムは、O/Hするのが当然だ！” - Off-hireを巡る用船料の未収に対して船主が持つ対抗措置 - “Paramount Clauseは、船荷証券の話だから、傭船契約そのものとは関係ない！” - “私は船長だ。定期傭船者が用意した船荷証券の内容は、傭船契約上の船主の義務と矛盾し、それを加重しているからその発行を拒否する！” - “当方は、定期傭船者だ。船主が運送人となる船荷証券が発行されたのだから、船荷証券上の責任は最後まで船主が負うべきなので、そちらで処理してください。傭船者の関知するところではない！”
	3	3.航海傭船契約を巡る紛争 例) - “GENCONにParamount Clauseを挿入すると何が変わるの？” - “N/Rを気楽にacceptしてしまったが、別に問題無いよね！” - “Shifting中の時間は、navigationなんだから、船主の責任、Laytimeはno countに決まっているだろう！” - Laytimeに関する原則と書式中に有る“原則に反する特約”色々
参考資料	国際海上物品運送法・NYPE 1946・GENCON 1976/1994	

海運実務研修講座 17		改
「トラブル回避のための貿易実務(中級編)(連続2日間)」※旧 貿易実務(中級編)全3回		
貿易取引のトラブル回避やリスク管理のために		
★★★		
今年度予定	10月1日(月)、2日(火) 1日目 13:30~17:00、2日目 13:30~15:00	

昨年度実施状況

日時	2017年9月6日、13日、20日(毎週水曜日) 15:30~17:00(初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	初・中級 海運実務研修講座「貿易実務基礎」受講済みの方(年度は問いません)。 またはそれに準ずる知識のある方。実務経験2~3年程度。	
講師	アースリンク 貿易アドバイザー 川村 久美子 氏	
略歴	<p>大学卒業後、電子材料商社・電子精密部品メーカーにて一貫して仕入管理業務を担当。取引先の海外展開拡大に伴い、輸出・輸入業務全般も兼任。以降、実務部門の責任者として、新入社員のオリエンテーション、一般社員を対象とした貿易実務に関する勉強会等、社内研修の立案・計画も含めて社内講座を開催、講師を務める。</p> <p>定年退職後、株式会社アースリンクにて、これまでの豊富な実務経験を生かし、貿易実務、外為講師および企業の海外展開に関するアドバイザーとして本格的に活動開始。講師業のかたわら、株式会社アースリンクにおいて、貿易アドバイザーとして企業の海外展開のコンサルタント業務も行っている。</p> <p>貿易実務検定準A級、グローバルビジネス法務検定C級、教員免許「英語」中学1級、高校2級、図書館司書資格保持者。</p>	
概要	<p>今回の中級編は、実務経験豊富な講師とともに貿易取引でよく起こるトラブルやリスク(貿易条件、輸出規制、課税価格や貨物損傷)について、何が問題かを解説し、そのトラブルやリスクを回避、または軽減するため必要な知識や実務のポイントを正しく理解し、そのトラブルやリスクに対する対応策を検討します。</p> <p>尚、本講座は、今年5月に実施した海運実務研修講座(6)貿易実務基礎の続編となります。基本的な知識があることを前提とした内容です。ご自身の知識の再確認、曖昧な知識をクリアにしたい方などが対象です。</p>	
内容	1	1.インコタームズの留意点 ・貿易条件とは何か ・インコタームズとは何か ・費用負担の範囲と貨物の危険負担の範囲 ・輸送の手配は誰がするのか ・保険の手配は誰がするのか (休憩) ・貨物の危険負担と保険 ・輸送形態に適したインコタームズ(阪神大震災の問題点)
	2	2.輸出の法規制 ・輸出通関と輸出の法規制 ・リスト規制とキャッチオール規制 ・輸出貿易管理令の法令改正点 3.課税価格の決定と評価申告(税関による事後調査対策として) ・値引き相殺がされている場合の申告価格 ・無償で副資材を提供している場合 ・特殊関係がある場合 ・鋳型等を提供している場合 ・評価申告が必要な場合
	3	4.クレーム ・貨物損傷時の実務ポイント ・保険求償手続 5.三国間貿易 ・三国間貿易の実務ポイント ・事例ごとの留意点

海運実務研修講座 18 「海技の知識(全3回)」

船舶オペレーション業務のための運航の要点



今年度 予定	10月3日、10日、17日(毎週水曜日) 15:30～17:00
-------------------	-------------------------------------

昨年度実施状況

日時	2017年11月1日、8日、15日(毎週水曜日) 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	初・中級	
講師	一般社団法人 日本船長協会 常務理事 船長 鐘ヶ江 淳一 氏 一般社団法人 日本船長協会 常務理事 船長 大類 健三郎 氏 一般社団法人 日本船長協会 常務理事 船長 森山 和基 氏	
概要	本講座は、船舶の運航・操船、気象・海象、積荷に関する海技の基礎的な知識を身に付け、実務に役立てていただくことを目的としています。 海上経験豊富な船長3名を講師に迎え、日本船長協会で作成しているプレゼン資料や映像等を用いながら、分かりやすく解説します。 また、船のオペレーション担当初級者が対象ですが、海技資格者で長期に陸上勤務されている方にもお勧めです。	
参考資料	(一社)日本船長協会が発売している教育用ビデオをもとに構成しています。 http://www.captain.or.jp/?page_id=2910	
内容	1	初級オペレーターのための気象・海象の基礎知識 1. 知っておくべき基本的な気象知識 2. ウェザールーティングの航路選定について 3. 荒天域の避航・避泊について 4. ほか
	2	船舶輸送中に貨物が受ける影響とその対応 ※初級・中級オペレーターを対象に、海上輸送中の貨物に対する、船上におけるダメージ対策を解説。 1. 貨物に影響を及ぼす要素(外力・熱・湿気) 2. 貨物への影響を最小限に防ぐために 3. 各専用船における貨物へのダメージ対策 4. その他特殊貨物への対応
	3	初級・中級のオペレーターのための巨大船及び特殊船型船の操船の知識 1. 巨大船と特殊船型船の定義 2. 巨大船の惰力と特殊船型船の風圧抵抗 3. 制限水域での操船(船体沈下量の解説) 4. 港内操船(タグ使用に関するものも含む) 5. 錨泊、係留(走錨に関する条件) 6. 荒天航海(ブローチング(追波)、パラメトリック現象など)

海運実務研修講座 19 「ドリルシップ・オフショア支援船・FPSOをとりまくリスクと 契約上のリスク分担(全2日)」 海洋フロンティア事業のリスクを考える ★★★	
今年度 予定	10月11日、18日(毎週木曜日) 13:30～17:00

昨年度実施状況

日 時	2017年12月12日(火)、13日(水) 13:30～17:00(初日終了後、18:00まで懇親会)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	全2日	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む
	1日のみ	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	中級以上	
講 師	星 誠 氏	
略 歴	1983年 保険会社入社。米国でMBA取得後、7年に亘りサハリン2プロジェクトのリスクマネージャーを務める。業務の一環として、コントラクト担当やプロジェクトファイナンス担当への指導、アドバイスを実施。2003年から2009年まで保険会社で船舶・海洋エネルギー開発保険の保険金支払い業務の責任者を務める。その後、コンサルタントとして深海用ドリルシップ向けのプロジェクトファイナンスへの保険アドバイザーも経験。	
概 要	近年本邦の海運業界から関心が高まる海洋資源開発関連船舶の事業リスクを考えるうえで重要な契約上のリスク分担を検討します。 今年度は保険講座を別に設けたため、昨年度の3日間+研究会の内容を2日間に再編成しました。本年6月に発表された BIMCO の SUPPLYTIME2017 の変更点から、あるべきリスク分担を考えます。また米国裁判所が認定したメキシコ湾事故発生までの様々な意思決定や行動を概観したうえで、組織・人事制度や行動心理が、そこに如何に影響したのかの検討と現場の実態を踏まえた契約規定の必要性を検討します。 以前に本講座を受講された方の参加も歓迎します。1日のみの参加も可能です。	
内 容	12月12日 (火)	1.海洋エネルギー開発の文脈を踏まえたリスク分担の原則 ・リスク分担の実務(主要標準契約) ・メキシコ湾暴噴事故以降の傾向 ・リスク分担の背景哲学 ・リスク分担の全体像と対応する保険 ・契約上のリスク分担の限界 ・契約以外の戦略的リスクヘッジの重要性
		2.SUPPLYTIME2017 改定点の検討 ・例外削減によるKnock for Knock の強化 ・Knock for Knock適用範囲の落とし穴の削減 ・重大な契約違反でもKnock for Knock? ・Maintenance Allowance などその他の変更点

内 容	12月13日 (水)	1.契約上のリスク分担規定 ワークショップ ・契約文言の意味が争われたケースを使用し、契約のドラフティングの重要性を「肌感覚」で感じていきます。
		2.巨額化する罰金と刑事罰の影響を考える ・事業リスクを考えるうえで、無視できないリスクになりつつある罰金と刑事罰の実例と影響を検討します。
		3.失敗学の観点からメキシコ湾事故の真因を考える ・BPの組織、人事制度、現場関係者の行動心理が与えた影響 ・リスクマネジメント: 大事故を防ぐために必要な要素とは ・現場の実態を踏まえたとえでの契約規定の重要性を考える

海運実務研修講座 20 「外航貨物海上保険 入門(全3回)」

改
★

荷主・運送人双方の理解のために

今年度 予定	10月12日、19日、26日(毎週金曜日) 15:30～17:00(初回終了後、18:00まで懇親会)
-------------------	--

昨年度実施状況

日 時	2017年10月17日、24日、31日(毎週火曜日) 18:00～19:30(初回終了後、懇親会につき20:30まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	入門・初級 荷主の立場で貨物保険にかかわりがある方や海運会社の営業、運航にかかわる方。	
講 師	共栄火災海上保険 商品開発部海上グループ グループリーダー 金田 宏太郎 氏	
略 歴	2003年共栄火災海上保険(株)入社 以来一貫して海上保険営業担当として同社主要顧客を担当。 2013年より現職、全国の顧客ニーズを反映した保険商品の開発を手がける。	
講 師	共栄火災海上保険 損害サービス業務部 海上サービス室 井桁 奈保 氏	
略 歴	2005年共栄火災海上保険(株)入社以来 海上保険の引受部門、営業部門を歴任。 2014年より現職 東日本地区の顧客の保険金支払を手がける。	
概 要	<p>船舶や船舶運航における安全管理技術の進歩にもかかわらず、自然災害や人為に起因する海難とそれに伴う海上貨物損害は跡を絶たず、貿易取引の当事者は、収益安定のため適切な貨物保険を付保してリスクを軽減する必要があります。</p> <p>本講座は、海上貨物保険を有効に利用するために、どのような船舶運航上の危険に対してどのような条件の保険を付保すれば、どれくらい損害が回収されるか、実例に基づき基礎から解説いたします。また、実際貨物損害が発生した場合の対応、手続きも詳述いたします。</p> <p>なお、運送人の視点から損害が貨物保険でカバーされない場合や、貨物保険者から求償された場合の対応(運送クレームへの対応や責任保険によるカバー等)についても触れます。</p>	
内 容	1	貿易と外航貨物海上保険の基礎 Riskへの対応としての保険、海上貨物保険 誰が貨物保険を付保するか 海上運送人の責任 貨物保険でカバーされる危険 協会貨物約款ICC
	2	外航貨物海上保険の諸条件 貨物保険でカバーされる危険(続き) 海上危険 共同海損 戦争、ストライキ 保険期間
	3	貨物損害発生時の対応 外航貨物保険における損害サービス体制 保険金請求手続きと必要書類 保険金の計算方法 運送人に対する求償 事故事例と損害サービス実務

海運実務研修講座 21 「航海傭船契約におけるLaytimeの基礎知識(ドライバルク中心)(全3回)」

レイタイムの考え方を整理する

★★

今年度 予定	10月16日、23日、30日(毎週火曜日) 15:30～17:00
-------------------	--------------------------------------

昨年度実施状況

日時	2017年11月2日、9日、16日(毎週木曜日) 15:30～17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	初・中級 Laytimeに関する基本的な知識を整理したい方。 ※ドライバルクを想定していますが、特筆すべき注意点がある場合はAsbatankvoyなどの契約書についても言及します。	
講師	日本海運集会所 仲裁グループ 松下 千紗	
概要	<p>航海傭船契約上最も頻繁に起こるトラブルの一つはレイタイムに関するものであり、当事者間で納得の行く形でトラブルを処理することは傭船実務を円滑に進める上で重要です。</p> <p>そこで、本講座では、ドライバルク貨物運送用の航海傭船契約標準書式を念頭に置き、航海傭船契約におけるレイタイムの位置付け、典型的なトラブル、英国の裁判所が打ち立ててきた諸原則を、傭船実務経験の浅い方向けに解説します。</p> <p>(タンカー用航海傭船契約の講座は、別途、来年1月に開講いたします。)</p>	
内容	1	<p>1.航海傭船契約とLaytimeの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航海傭船契約とはどのような契約なのか (船主及び傭船者の義務、堪航性、Laycan、荷役責任など) ・Laytimeとは何か <p>2.Laytimeの開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Laytime開始の要件 要件(1): 約定の場所に到着すること (Port CharterとBerth Charter、WIBONとWIPONなど) 要件(2): 荷役準備が完了していること 要件(3): NORがtenderされていること (NORはいつ出せるのか、Laycan開始前にNORを出したらどうなるのか)
	2	<p>3.Laytimeのカウント方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「WWD24CH」や「WWDSEX」などの表記について ・WeatherやHolidayの考え方 ・CQDについて <p>4.Laytimeの終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Laytime終了のタイミング ・Despatch、Demurrage及びDetentionについて
	3	<p>5.Laytimeから除外する時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般原則:(1)除外規定がある(2)Owner's faultである ・Demurrageの場合 ・「Force Majeure」について ・Shifting timeの考え方 ・荷役中の離岸 ・Berth待ちの間の船主側の行為

海運実務研修講座 22 「不定期船実務の基礎知識(全9回)」	
不定期船ビジネスを海陸双方向から学ぶ ★★	
今年度 予定	10月22日～12月17日(毎週月曜日) 1～6回 10月22日、29日、11月5日、12日、19日、26日(毎週月曜日) 15:30～17:00(11月26日の講座終了後、懇親会予定) 7～9回 12月3日～17日(毎週月曜日) ※日程は変更になる場合があります。 18:00～20:00(120分/回)

昨年度実施状況

日 時	2017年10月23日～12月14日 1～6回 10月23日、30日、11月6日、13日、20日、12月4日(毎週月曜日) ※11月27日(月)は休講 15:30～17:00(90分/回) (初回終了後、懇親会につき18:00まで) 7～9回 12月7日、14日、21日(毎週木曜日) 17:30～19:30(120分/回) ※開始時刻が変更になりました。	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:45,000円(税別) JSE非会員:90,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	初・中級	
講 師	1～6回	せとうちクルーズ 代表取締役社長(元 商船三井、元 神原汽船) 城 暁男 氏
略 歴	1972年大阪商船三井船舶(株)入社。不定期船部門を歩み部長を経て、Mitsui OSK Bulk Shipping (Europe) Ltd. Managing Directorに。 帰国後は、神原汽船(株)の取締役、常務取締役、社長、会長を歴任し、今年から(株)せとうちクルーズ代表取締役社長を務めている。	
講 師	7～9回	乾汽船 海運事業部船舶管理室グループリーダー 海務監督 船長 小坂 吉彦 氏
経 歴	2001年乾汽船入社。 海上勤務後、営業・運航支援の海技員として陸上勤務を行う。 その後、船舶管理部を経て海上勤務へ戻り、2013年船長として乗船。 2014年11月より海務監督として海務・海技・船員の業務を務める。	
概 要	本講座は、不定期船に携わる方、海運に興味・関心を持っている方、また不定期船に対して断片的な知識を持っているものの、船舶建造から処分までの全体像について理解を深めたい方などを対象に解説します。 例年同様、陸上業務編6回、海上業務編3回で構成されていますが、陸上業務編6回は、今年は城暁男氏(元商船三井、元神原汽船)に不定期船営業のご経験をもとにお話をいただき、その後、引き続き海上業務編3回を担当する乾汽船の小坂吉彦船長は、船とその運航に関する技術的な知識・乗組員の話・船用機関基礎・海事法規基礎・貨物と積み付け、について、船の図面、写真、貨物のサンプルなどを参照して、実務・現場に基づいた話を分かりやすく説明いたします。 また、テキストは、2015年の講師福田徹光氏のをベースに改訂・アップデートしたものと乾汽船発行『不定期船実務の基礎知識(非売品)』も特別に参考書として配布します。	

内 容	1	海運の歴史 1)世界の海運の歴史 2)わが国の近代海運の歴史
	2	船舶保有の基本的な考え方 1)Ownerと Owner-Operator 2)海運業における利益追求の考え方 3)船種・船型検討・・・荷主・傭船者の動向把握 4)船価(新造か中古船か)検討 5)本船コスト試算・・・船価、船員費、金利 6)Operatorに傭船に出す場合の注意点 7)傭船契約書(C/P)
	3	海運経営 2017年3月期海運会社の決算状況
	4	海運営業(引合と運航) 1)引合(Chartering)の基本的な考え方 A)手持ち戦力の把握 B)市況の判断 C)交渉相手の選択と環境判断 D)Offerの準備・心構え(Estimation作成) E)交渉 F)成約・契約書(Charter Party)作成 2)運航(Operation)の基本的な考え方 A)動静把握 B)積荷・積高・Stowage C)積揚港 D)航路・補油・気象海象 E)船長・代理店への指図 F)入出金 G)Laytime Calculation H)海難・戦争・訴訟対応 I)Arbitration(仲裁) J)EstimationとActual Resultとの比較
	5	船舶処分の基本的考え方 1)本船のCondition 2)中古船市場(Ship Sales & Purchase Market) 3)対策
	6	海運プール
	7	・船舶概説 ・船体構造から船を知る (船体構造・船殻・船用鋼板・軽荷重量・載荷重量・ドラフトサーベイ・船体強度・気象の影響)
	8	・貨物と積み付け ・船用機関(エンジン)の基礎 ※12月7日(第7回)と14日(第8回)の講義は連続した内容です。船体構造を切り口として船舶という物体を概説し、そこから貨物と積み付けの話へつなげます。各日の内容は当日の進捗次第で調整します。船用機関については簡単に概説します。
	9	・船舶乗組員の話(船員の職務・船内生活・楽しい事・辛い事・その他船員に関する諸事項) ・海事法規(国際条約・各種規則・ISM Code / SMSなど)
参考資料	乾汽船発行「不定期船実務の基礎知識」(非売品) 日本海事広報協会発行「日本の海運 SHIPPING NOW 2017-2018」 ※講座資料等は別途配布	

海運実務研修講座 23 「P&I保険の基礎(全4回)」

航海の安心と安全を担保する保険講座



今年度 予定	11月2日、9日、16日、30日(毎週金曜日) ※11月23日は休講 15:30~17:00(初回終了後、18:00まで懇親会)
-------------------	---

昨年度実施状況

日時	2018年1月18日、25日、2月1日、8日(毎週木曜日) 15:30~17:00(初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	入門・初級	
講師	日本船主責任相互保険組合(Japan P&I) 損害調査部 第3グループ マネージャー 蔵田 達司 氏	
	日本船主責任相互保険組合(Japan P&I) 損害調査部 第3グループ アシスタントマネージャー 小田嶋 玲子 氏	
概要	P&I保険とはProtection & Indemnity保険の略称で、船舶の所有者等が船舶の運航によって発生した事故等で第三者に対して負う責任及び費用をてん補する保険です。 本講座では、P&I保険の総論の後、船員の傷病、財物損害、油濁損害、貨物損害等、広範なP&I保険のてん補についてわかりやすく解説します。	
内容	1	I.P&I保険の概要 II.船員クレーム 保険契約、てん補の範囲、クレームの傾向など
	2	I.財物損害 II.船骸撤去 III.SCOPIC報酬 船主責任制限制度、SCOPIC条項など
	3	油濁事故 油濁補償の法制度とその歴史、事故対応 など
	4	貨物損害 運送人の責任、国際条約の比較 (ハーグルール/ハーグヴィスビールール/ロッテルダムルール)など

海運実務研修講座 24 「入門 会計と海運業(全3回)」

海運特有の会計基礎を学ぶ



今年度 予定	11月8日、15日、22日 15:30～17:00(初回終了後、18:00まで懇親会)
-------------------	--

昨年度実施状況

日時	2017年11月7日、14日、21日(毎週火曜日) 18:00～19:30(初回のみ終了後懇親会につき20:30頃まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	入門・初級 海運業における会計の基礎を身につけたい方(入社1～2年程度)	
講師	公認会計士 須藤 佳典 氏 公認会計士 伊藤 晃子 氏	
概要	<p>本講座では、一般的な会計の基本原則をおさらいしたうえで、海運特有の実務がどう会計処理されるかを図表等を用いてわかりやすく解説します。</p> <p>海運業では船舶管理業の発展、経理のシステム化等により、あるいは船舶金融の多様化等により海運会計の知識を必要とする分野や業務は拡大しています。</p> <p>海運や関連企業、金融機関で海運会計に携わるフレッシュマン、あるいは海運会計に関心のある方を対象に、入門編という位置づけでもっとも基礎となる知識をお伝えします。</p>	
内容	1	会計と海運業ビジネスの基礎的理解 会計における海運業の特徴 海運業収益
	2	船舶にかかる論点(仕組船会社、償却、修繕)
	3	船舶にかかる論点(減損、税務) 代理店との取引(運航費・港費) 燃料費・貯蔵燃料、借船料
※講座内容・順序等は変更になる場合がございます。		

海運実務研修講座 25 「新人社員研修(秋) (連続2日間)」

船で世界の荷物を運ぶ海運の基礎を学ぶ



今年度 予定	11月20日、21日 13:30～17:00(初日終了後、18:30まで懇親会)
-------------------	---

昨年度実施状況

日時	2017年10月18日(水)、19日(木)【連続2日間】 13:30～17:00(初日は講義終了後18:30まで懇親会)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	60名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	入門・初級 新人社員、中途入社社員	
概要	本講座は、初日に疑似航海のストーリーをもとに商船の運航の基礎を学び、二日目は海事産業の仕組みの説明を含む海運入門、及び船舶保険・P&I保険の概要を学び、海運マンとして必要な基礎知識を身に付けていただくことを目的としています。 また、一日目の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しております。ぜひご参加ください。	
内容	10月18日 (水)	第一部 13:30～17:00 (途中休憩有) 『商船の運航・基礎編』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上貨物輸送の現状(日本海運と便宜置籍船、船員リソース) ・船の諸元(長さ、幅、深さ、喫水、トン数、速度、操縦性能) ・航海実務(入出港、大洋航海、航海計画、荷役、航海計器、当直体制、パナマ運河、スエズ運河) ・船舶管理 ・安全運航管理(海難事故、海賊対策、ISMコード) ・商船の環境対策(燃費・CO2排出) ・その他、船の現状(船内生活、通信、健康管理)
		講師：日本海洋科学 取締役相談役 関根 博 氏
		第二部 『懇親会』 17:00～18:30 <ul style="list-style-type: none"> ・異業種の方とお話できる場でもあります。積極的にご参加ください。
	10月19日 (木)	第一部 13:30～15:00 『海運ビジネスの基礎』 <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の海事クラスター (1) クラスターの構成者 (2) 構成者の紹介 2. 海運ビジネスの仕組み (1) 運航者と船主 (2) 運賃と傭船料 (3) 船舶採算の基礎 3. 海運の事業部門 (1) コンテナ事業 (2) ドライバルク事業 (3) 石油・ガス運搬事業 (4) その他 4. 海運を取り巻く現状 (1) 船舶の大型化 (2) 海運市況 (3) 海運の将来
	講師：商船三井 ドライバルク営業統括室室長代理 岩佐 竜至 氏	
	休憩 15:00～15:30	
	第二部 15:30～17:00 『船舶保険/P&I保険の概要』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の成り立ち ・海上保険の全体像 ・船舶保険の種類とその概要 ・P & I 保険の概要 	
	講師：損害保険ジャパン日本興亜 海上保険室船舶保険グループ グループリーダー 宮本 光洋 氏	

海運実務研修講座 26 「航海傭船契約(基礎編・タンカー)」

ASBATANKVOYを中心に航海傭船契約の基礎を学び、応用力を培う

★★

今年度 予定	1月16日、23日、2月6日、13日(毎週水曜日) ※1月30日は休講 15:30～17:00
-------------------	--

昨年度実施状況

日時	2018年1月22日(月)、23日(火)、30日(火)、2月6日(火) ※初回のみ変則的 15:30～17:00 (初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	初・中級 航海傭船契約またはそれに関連した業務に携わり、経験の浅い方。	
講師	早稲田大学 海法研究所研究員/元福岡大学教授 榎本 啓一郎 氏	
略歴	イギリス、インドでの生活経験とアメリカでの留学経験を持つ。 1971年成城大学経済学部卒業。同年、三井物産(株)に入社、有機化学品部にてリキッド・バルク・ケミカルの国際商取引等を担当。 台北、ブリュッセルでの海外勤務を経て、バンコックにてタイ国三井物産の副社長を務め、2002年から2013年3月まで福岡大学商学部教授として国際貿易に関わる教育と傭船契約の研究に従事。 現在、早稲田大学海法研究所研究員として研究を継続。 国際商取引学会、日本貿易学会、日本海法学会、異文化経営学会の会員。 2012年 山縣記念財団「山縣勝見賞」「論文賞」受賞	
概要	本講座は、タンカーの運航や営業に携わって間もない実務担当者向けの基礎編です。リキッドバルクカーゴ(原油、石油製品、ケミカル製品)の航海傭船契約に広く利用されているASBATANKVOY標準書式を取り上げ、契約履行のルールを講師の体験を交えながら実践的に解説します。 個別条件の記載要件とその意義はもとより、そこに潜む船主と傭船者の相反するリスクの負担についても、分かり易く具体的に言及します。他の標準書式で定められたルールとも適宜比較しながら講義を進め、その多用性を認識することで理解をさらに深めることが期待できます。	
内容	1	1.航海傭船契約における責任の区分
	2	2.航海傭船契約標準書式の構成
	3	3.個別条件の記載要件
	4	4.船主の責任
		5.傭船者の責任
		6.責任と費用の分担
		7.碇泊時間と滞船料

海運実務研修講座 27 「内航海運概論(全1日)」※旧 内航海運

日本の産業と国民生活を支える輸送システム



今年度 予定	1月頃 13:30～17:00
-----------	--------------------

昨年度実施状況

日 時	2018年2月13日(火曜日) 13:30～16:45(途中休憩有)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	入門・初級	
講 師	流通科学大学 商学部 教授 森 隆行 氏	
略 歴	1975年大阪市立大学商学部卒業、大阪商船三井船舶株式会社(現・株式会社商船三井)入社。1990年大阪支店輸出部輸出2課長。 1992年広報室広報課長。1994年営業調査室課長。 1996年AMT freight GmbH(出向)社長。2001年丸和運輸機関(出向)海外事業本部長。2004年株式会社商船三井営業調査室主任研究員。 2006年商船三井退職、流通科学大学商学部教授。神戸大学海事科学研究科客員教授。	
著 書	『新訂・外航海運概論』(成山堂書店) 『物流の視点からみたASEAN市場 東南アジアの経済発展と物流』(カナリアコミュニケーションズ) 『神戸港昭和の記憶 仕事×ひと×街』(のじぎく文庫) 共著『内航海運』(晃洋書房) 『コールドチェーン』(晃洋書房) 『神戸客船ものがたり』(神戸新聞総合出版センター) ほか	
概 要	内航海運は、国内物流の約4割を担い、鉄鋼、石油、セメントなど産業基礎物資の約8割の輸送を担っています。 震災復興、東京五輪開催等、当面の日本の課題に取り組む上でも、また、その後日本経済が一定規模を維持していく上でも重要な未来のある産業です。 本講座では、外航海運との比較により内航海運の特徴を認識した上で、克服すべき問題点を洗い出し、より競争力のある、魅力のある内航海運業となるための方策を検討いたします。 前半は、内航海運の概要や重要性を学び、後半は、内航海運の抱える課題とその取り組みについて解説いたします。内航業界の次世代を担う若手社員や内航との関わりの強い物流業界の新人の方にお勧めです。	
内 容	前半	内航海運の現状と役割 1.内航船の役割 2.内航海運業界の現状 3.内航海運と外航海運の違い 4.内航海運の市場構造 5.船舶管理(オーナー、オペレーター、船舶管理会社)
	後半	内航海運の抱える課題と課題解消への取り組み 6.内航海運の課題と取り組み 7.内航海運の新たな取り組み 8.まとめ

海運実務研修講座 28 「船荷証券の基礎と実務上の問題点(全5回)」

B/Lの基本を理解し、実務に活かす

★★

今年度 予定	2月頃 18:00～19:30
-------------------	--------------------

昨年度実施状況

日 時	2018年2月9日、16日、23日、3月2日、3月9日(毎週金曜日) 18:00～19:30(初回終了後、懇親会につき20:30まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	初・中級	
講 師	雨宮総合法律事務所 弁護士・海事補佐人 雨宮 正啓 氏	
略 歴	早稲田大学卒、早稲田大学大学院法学研究科(修士課程)修了 早稲田大学客員教授、大連海事大学法学院客座教授、海法研究所[早稲田大学総合研究機構]客員上級研究員、日本海運集会所海事仲裁委員会仲裁人、日本海運集会所書式制定委員会委員、国土交通省・標準運送約款等のあり方に関する検討会座長、元・法務省法制審議会幹事(商法(運送・海商関係)部会)など。	
概 要	<p>船荷証券は国際物品売買取引において使用される基本的な有価証券となります。しかしながら、その内容は決して容易なものとは言えません。</p> <p>そこで、本講座では、船荷証券に関する基本的な知識及びその理解の前提となる国際運送や国際取引の基礎を習得していただき、更に、船荷証券約款に基づく運送人の責任及び荷主の責任について概観し、船荷証券に関する理解をいっそう深めていただくことを目標としています。</p> <p>加えて、判例や法的紛争となった実例を紹介し、それらを実務の基礎として活かしていただけるような講義内容とすることを予定しています。</p>	
内 容	1	船荷証券と運送契約の基礎
	2	船荷証券の種類及び性質
	3	船荷証券の約款及び運送人の責任(1)
	4	船荷証券の約款及び運送人の責任(2)
	5	船荷証券の約款及び荷主の責任

海運実務研修講座 29 「航海傭船契約(応用編・タンカー)」

航海傭船契約の一般原則と遅延のリスク管理

★★★

今年度 予定	2月20日、3月6日、13日、20日(毎週水曜日) ※2月27日は休講 15:30～17:00
-------------------	--

昨年度実施状況

日時	2018年2月14日、21日、3月7日、14日(毎週水曜日) ※2月28日は休講 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	中級以上	
講師	元福岡大学教授/早稲田大学 海法研究所研究員 榎本 啓一郎 氏	
略歴	イギリス、インドでの生活経験とアメリカでの留学経験を持つ。 1971年成城大学経済学部卒業。同年、三井物産(株)に入社、有機化学品部にてリキッド・バルク・ケミカルの国際商取引等を担当。台北、ブリュッセルでの海外勤務を経て、バンコックにてタイ国三井物産の副社長を務め、2002年から2013年3月まで福岡大学商学部教授として国際貿易に関わる教育と傭船契約の研究に従事。現在、早稲田大学海法研究所招聘研究員として研究を継続中。 国際商取引学会、日本貿易学会、日本海法学会、異文化経営学会の会員。 2012年 山縣記念財団「山縣勝見賞」「論文賞」受賞	
概要	<p>船荷証券は国際物品売買取引において使用される基本的な有価証券となります。しかしながら、その内容は決して容易なものとは言えません。</p> <p>そこで、本講座では、船荷証券に関する基本的な知識及びその理解の前提となる国際運送や国際取引の基礎を習得していただき、更に、船荷証券約款に基づく運送人の責任及び荷主の責任について概観し、船荷証券に関する理解をいっそう深めていただくことを目標としています。</p> <p>加えて、判例や法的紛争となった実例を紹介し、それらを実務の基礎として活かしていただけるような講義内容とすることを予定しています。</p>	
内容	1	1.遅延のリスク 2.契約形態と着船の要件
	2	3.「着船」と港内要件 4.荷役準備完了通知の効力 5.指定港へのアクセス
	3	6.常時到達可能なバース手当の義務 7.荷役の開始
	4	8.碇泊時間の運用と終了 9.慣習的早荷役 10.まとめ

海運実務研修講座 30 「船舶保険実務(中級)(全2回)」

実践的な対応力を強化する

★★★

今年度 予定	2月頃 15:30～17:00
-------------------	--------------------

昨年度実施状況

	2018年2月20日、27日(毎週火曜日) 15:30～17:00(初回のみ終了後懇親会につき18:00頃まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	中級以上	
講 師	三井住友海上火災保険株式会社 海損部船舶グループ長 小林 一貴 氏	
略 歴	1990年 大正海上火災保険(株)(現 三井住友海上火災保険(株))入社。以来28年間、東京、今治、広島で海上保険(主に船舶保険)の事故対応・保険金支払業務に従事。2014年より現職。	
概 要	<p>船舶事故の際に発生する実務上の問題解決に向けて、船舶の所有者・運航者としてどのように考え・対応していくか、船舶保険に関連する領域の対応ポイントを中心に、事故を想定したケーススタディを通して具体的なイメージを持つて理解できるよう解説します。</p> <p>船舶保険のカバー内容の説明はありませんが、船舶保険のパンフレットを通読したことがあれば理解できる講座となっています。</p> <p>なお、本講座は船会社の法務・保険にかかわる方はもちろん、海工務担当の方や財務にかかわる方にもお勧めいたします。</p>	
内 容	1	海外での衝突事案対応の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・衝突直後の運航者としての初動判断 ・衝突直後のシナリオ分析と裁判地の検討 ・経済損失最小化のための早期解決策模索 ・ケーススタディ
	2	事故に起因する本船のアレスト対応、海難救助契約の選択について <ul style="list-style-type: none"> ・漁船との衝突嫌疑による海外での差押さえ ・Alleged Salvageとは何か ・救助契約の強制(注意地域) ・銀行保証状が要求される場合と発行までの流れ・問題点 ・救助ケースにおける救助契約の選択 ・ケーススタディ

海運実務研修講座 31 「定期傭船契約(全4回)」

定期傭船契約の基礎を学び現場で生かす

★★

今年度 予定	3月頃 15:30～17:00
-------------------	--------------------

昨年度実施状況

日時	2018年3月1日、8日、15日、22日(毎週木曜日) 15:30～17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	初・中級 トラブル対応力向上のために、定期傭船契約の基本構造を学びたい方	
講師	日本海運集会所 仲裁グループ マネージャー 一戸 康佑 日本海運集会所 仲裁グループ 松下 千紗	
概要	NYPEシリーズの第8条に絡む諸論点の解説を通じて定期傭船契約の基本構造の理解を深めることをねらいとしています。	
内容	NYPEシリーズの第8条に焦点を当て、これに絡む諸論点について解説します。	
	1	指図と補償、荷役、B/Lの署名、安全港、戦争・海賊条項
	2	傭船期間、傭船料の支払い、引き揚げ
	3	Off-hire、Lien
	4	USCOGSA、堪航性、Maintenance、免責、仲裁

海運実務研修講座 32 「船舶金融論と船主経営論(全2回)」

海事ビジネスを支える船舶金融基礎の解説と今後の展望についての考察

★★

今年度 予定	3月頃 13:30～17:00
-------------------	--------------------

昨年度実施状況

日 時	2018年3月5日、12日(毎週月曜日) 13:30～17:00(初日終了後、懇親会につき18:00まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対 象	初・中級	
講 師	早稲田大学 大学院 法学研究科 非常勤講師 木原 知己 氏	
略 歴	1984年九州大学法学部卒業後、日本長期信用銀行(現新生銀行)入行。主として船舶融資を担当し、営業第八部長、高松支店長を最後に同行退職。 2005年に都内金融機関に入行し、船舶金融チームを立ち上げる。 2011年、青山総合会計事務所顧問に就任し、パートナーを経て海事スーパーバイザーとなる。 現在は、船主向け経営コンサルティングの傍ら、ファイナンスアレンジなどに従事する他、早稲田大学大学院法学研究科非常勤講師(船舶金融法研究)、センチパートナーズ(株)代表取締役、海事振興連盟三号会員、海洋立国懇話会会員などを務める。	
著 書	『船舶金融論—船舶に関する金融・経営・法の体系』(海文堂出版) 『シップファイナンス—船舶金融概説(増補改訂版)』(海事プレス社) 『船主経営の視座』(海事プレス社) 『波濤列伝』(海文堂出版) 『船舶金融法の諸相』(編著、成文堂)	
概 要	船舶を建造・購入するときに必要な船舶金融の基礎(原理原則、定義、体系、実務ほか)について、貸す側と借りる側双方の視点に立ち、初歩の金融論・船主経営論・法との接点を交えて解説します。 また、現状を分析し、船舶金融の深化・進化について考察することで、将来を展望します。	
内 容	1	船舶金融(船舶融資)とは
	2	船舶金融(船舶融資)の判断基準
	3	船主経営の課題
	4	船舶金融の今後の進化

海運実務研修講座 33 「船舶売買の実務(全3回)」

船舶売買の手順とポイント、ケーススタディ

★★★

今年度 予定	3月頃 15:30～17:00
-------------------	--------------------

昨年度実施状況

日時	2018年3月13日、20日、27日(毎週火曜日) 15:30～17:00(初日は終了後、懇親会につき18:00まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:19,630円(税別) JSE非会員:34,630円(税別) ※テキスト代、資料代、懇親会費含む	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
対象	中級以上 実務経験3年以上(基本的な専門用語が分かる方)	
講師	ティエッチマリンアンドエンタープライゼス 代表取締役 吉丸 昇 氏	
略歴	1957年中央大学法学部卒業。海運・造船関係の専門紙記者を経て1970年船舶売買のケーブリングブローカーに転進し、1989年より現職。 著書にがある。	
著書	『船舶売買契約書の解説(改訂版)』(成山堂)	
概要	船舶売買の商談の開始から売買の完結まで、実務上の重要ポイントと過去のトラブル事例、講師の体験談をふまえてに説明します。 第1回と第2回では、著書『船舶売買契約書の解説』の初版(絶版、本講座のテキストとして配布します。)を使用し、船舶売買契約書の全体像の理解を深め、第3回では、トラブル発生の可能性が高い本船の引渡現場における注意点を解説いたします。	
内容	1	商談の開始から成立(手付金の確認)まで、および船舶売買契約書の書式全般について(主な要旨) ・商談開始に関する Authority と Commitment について ・見船を省略し検査記録の閲覧と積荷経歴や写真判定でオファー ・契約成立の国際解釈に二つの流れ ・国際取引で認知されない諸慣行 ・手付金の受領確認で諸手続きを開始 ・SALEFORM2012、SSF2011、PROTOTYPE等について
	2	売買契約書のプレアンブルと第1条から第15条までの説明、および追加条項についての説明(主な要旨) ・プレアンブル作成の意義と注意点 ・トラブルの少ない条文作成のポイント(第1条から第15条) ・追加条項には取引の実態を詳細に反映させる
	3	本船の引き渡し現場における注意点、および売買船担当者からの質疑応答(主な要旨) ・本船の引渡条件は見船時の現状有姿が原則など ・本船の引渡準備完了の意義と効力 ・NR Tender/Acceptは現場での大きな節目 ・本船引渡し完了後の売主の責任
テキスト	著書『船舶売買契約書の解説』(初版 成山堂)他	

※各講座の日程や詳細については、関係各位に【JSEメール通信】にて配信しています。
毎月16日前後に、翌月に開催する全ての講座・セミナーの概要をお知らせし、
また、各講座の開催日の3週間前に申込みフォームを添えて詳細をご案内しています。
配信をご希望の方は、project@jseinc.org 宛てにメールにて以下をお送りください。

1. 会社・法人名
2. 部署名
3. 役職名
4. 氏名(ふりがな)
5. メールアドレス

(注)個人アドレスは上記1～5を、グループアドレスは1, 2及び5をご記載ください。
複数のアドレスへの配信も承ります。

(お問い合わせ先)

一般社団法人 日本海運集会所 セミナーグループ
〒112-0002 東京都文京区小石川2-22-2 和順ビル3階
TEL 03-5802-8367 E-mail project@jseinc.org
HP <http://www.jseinc.org/index.html>

The Japan Shipping Exchange, Inc.

<http://www.jseinc.org/index.html>